

日刊 動労千葉

84. 9. 8

No. 1738

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

南朝鮮人民と連帯し 9.6全斗煥来日阻止闘争に決起

10.10を突破口に、三里塚闘争の 爆発で中曽根を打倒しよう

光州蜂起の庄殺者・全斗煥の来日は、再度の朝鮮—アジア侵略へむけた中曽根の一大反動攻撃であり、断じて許すわけにはいかない。三里塚を闘う勢力は、南朝鮮人民の決死の全訪日阻止闘争と連帯し、唯一羽田現地に決起し阻止闘争を闘いぬいた。

朝鮮再侵略を狙う全斗煥来日

全斗煥来日の目的はなにか。
アメリカ帝国主義・レーガンの世界戦争政策はいつ第二の朝鮮戦争が起きても決して不思議ではない情勢に突入している。

「日朝新時代の幕あけ」と称する今回の全斗煥の来日こそ、天皇、全会談をもって日帝による36年間の植民地支配—血ぬられた侵略の歴史を清算し、全斗煥独裁政権への強力なテコ入れを行い、朝鮮再侵略を開始せんとするものである。

まさに、反動中曽根の軍事大国化・改憲攻撃の一大エスカレーションに他ならない。
南朝鮮人民は軍政下の大弾圧体制をけて、断固訪日反対の声明を発し、阻止闘争に決起した。日本の労働者人民にとって、全斗煥来日を阻止することが唯一、南朝鮮人民に連帯する道である。

戒厳体制をうち破り二二〇〇名結集

東京実行委員会主催の「9・6全斗煥来日阻止集会」は、戒厳令体制を突破し羽田現地で開催され、三里塚反対同盟、動労千葉をはじめとする、二二〇〇名の労働者、学生が結集し、全斗煥来日に抗議の意志を叩きつけ阻止闘争を闘いぬいた。
中曽根の二期本格着工宣言により、決戦の秋を迎えた三里塚からかけつけた反対同盟の北原事務局長は、「全斗煥の来日は韓国、日本の軍備強化が目的だ。南朝鮮人民は日帝からうけた屈辱は忘れないといっている。われわれが連帯する道は全斗煥の来日を阻止すること以外にない。三里塚は百日間闘争を闘いぬき、成田用水ができないところまで追いこんでいる。絶対に勝利できる。三里塚闘争こそ全人民闘争の天王山であり、南朝鮮人民と連帯する道である」との決意を表明し、10・10三里塚現地集会への大結集を呼びかけた。

確信をもつて闘おう

— 布施書記長が決意表明 —

一〇〇名で決起した動労千葉を代表して、布施

書記長が決意表明にたった。

布施書記長は、全斗煥の来日に全労働者階級の怒りを代弁し「血ぬられた全斗煥が来日する。中曽根と朝鮮人民をどうしほりあげるのかの相談にくるのであり、絶対に許せない。東京を大量の機動隊でかため、暴力で守ろうとしているが、これは日米韓軍事同盟の弱点をあらわすものだ。人民の怒りをここに人達が代弁して闘おう」と述べた。

さらに、未曾有の国鉄労働運動解体攻撃の中で動労千葉の「三里塚・国鉄一路線の正義性について確信をもって提起し、「国鉄労働運動に10万人3人に1人の首切り攻撃がかけられている。国鉄労働運動を解体し、軍事大国化、改憲、天皇主義にもどそうとする攻撃であり、中曽根の弱点をつき正しい路線で闘えば必ず勝利できる。今日の勝利を基点に動労千葉定期大会を成功させ、10・10を突破口に一年間を確信をもって闘いぬく」との決意を明らかにした。

集会は「全斗煥独裁政権の延命に手を貸す中曽根の朝鮮再侵略を武力で打ち砕き、9・16・10・10三里塚闘争の爆発で中曽根を打倒しよう」との集会宣言を採択し、機動隊の弾圧体制をぶち破り本羽田公園までのデモ行進を貫徹した。

